

# Nursing Now: 看護の力で未来を創る ナイチンゲール生誕200周年に看護の力を社会へ! 世界へ!



公益社団法人日本看護協会 常任理事

荒木 暁子

2017年に日本看護協会常任理事就任以降、在宅看護、介護保険施設における看護、資格認定制度、継続教育、Nursing Nowや国際交流に関する事業を担当してきた。小児・リハビリテーション看護の臨床後、小児看護の教育に従事。千葉県千葉リハビリテーションセンターでは、看護管理者として教育担当を務めた後、2013年から2017年看護局長。博士（看護学）、経営学修士。

「看護の日・看護週間」制定30周年・ナイチンゲール生誕200周年記念イベントとして、2021年1月21日に「Nursing Now: 看護の力で未来を創る」を開催しました。「看護の日・看護週間」が30周年となることを踏まえ、これまでの活動を総括し、今後の一層の活動につなげる契機とすること、また、目下わが国でも進行中の「Nursing Now キャンペーン」の趣旨が「看護の日・看護週間」と同じ方向にあることに鑑み、人々の健康な暮らし、社会活動、医療提供の効率化に資する看護等について議論を行い、その社会的な価値を明らかにすることを旨としたイベントです。

## I イベントの背景

看護の日・看護週間、Nursing Now など、このイベントの背景となったこれまでの活動と、2020年が看護にとっていかに特別な年であったかをご紹介します。

1. 「看護の日・看護週間」制定30周年記念式典/第10回「忘れられない看護エピソード」表彰式

近代看護の祖であるフローレンス・



写真1 Nursing Now賞受賞の渡邊さんを囲んで、Nursing Now PR大使のHELLO KITTYと福井会長

ナイチンゲールの誕生日に由来し5月12日は、国際看護師協会 (International Council of Nurses) により「国際看護師の日」と定められています。日本においては旧厚生省が同日を「看護の日」、この日を含む日曜日から土曜日を「看護週間」として、21世紀の高齢社会を支えていくために、看護の心、ケアの心、助け合いの心を、誰もが育むきっかけとすることを目的に1990年に制定されました。以来30年に渡り、「看護の心をみんなの心に」をメインテーマとし、看護の魅力を紹介する「ふれあい看護体験」や「看護の出前事業」など様々なイベントが開催されておりました。

2020年に第10回を迎えた「忘れられない看護エピソード」は、「看護の日・看護週間」事業の一環として看護職、一般の方々から看護にまつわる心温まるエピソードを募集し、毎年、看護週間の期間中に募集を行い、表彰式を開催しています。

2. Nursing Now キャンペーン

Nursing Now は、看護職への関心を深め、地位を向上することを目的とした世界的なキャンペーンです。世界127か国で704のグループが活動しています(2020年11月時点)。世界保健機関(WHO)と国際看護師協会(ICN)が連携し、Nursing Now キャンペーン理事が運営する、看護職が持つ可能性を最大限に発揮し、看護職が健康課題への取り組みの中心に立ち、人々の健康向上に貢献するための行動です。

キャンペーンのきっかけとなった英国の議員連盟の報告書”Triple Impact

Report<sup>1)</sup> は、看護の発展は「持続可能な開発目標(SDGs)」の17の目標のうち、3つの目標(目標3:すべての人に健康と福祉を、目標5:ジェンダー平等を実現しよう、目標8:働きがいも経済成長も)に貢献すると結論づけました。すなわち、看護への投資自体が、人々の健康のみならず、持続可能な開発目標や経済成長につながるということになります。

日本看護協会(以下、本会)をはじめ実行委員会30団体(表)では、この3つのSDGsを目標としてベクトルを合わせ、それぞれ取組み方針を掲げて、後援団体や協賛企業の理解・協力を得てキャンペーンを展開しています。

Nursing Now キャンペーンは、本来はWHOが定めた「看護師・助産師の国際年」である2020年にピークを迎え年末までの予定でしたが、新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響を受け、世界においては2021年5月末で一旦現在の体制に区切りをつけ、ICNに引き継がれる予定です。日本では2021年6月末でキャンペーンに区切りを迎えます。

また、Nursing Now 本部で展開するNightingale Challenge という、世界中の保健医療関係の組織が、若手看護職(35歳以下)に対しリーダーシップ教育を行うことを推奨する企画にも本会は登録し、看護領域および看護領域以外の政策に関わる有識者の経験、後輩へのメッセージの動画をホームページにアップしています<sup>1)</sup>。日本WHO協会理事長の中村安秀先生にもご登壇いただき、看護への熱いエールをいただきました<sup>2)</sup>。



写真2 全国267のパブリック・ビューイング会場をつないで

## II 開催概要

1月21日は、午前中に『看護の日・看護週間』制定30周年記念式典／第10回『忘れられない看護エピソード』表彰式(厚生労働省・日本看護協会主催)、午後には「Nursing Now フォーラム・イン・ジャパン」(日本看護協会・笹川保健財団主催)を行いました。

当初は2020年5月開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により2021年1月に延期

の上、東京ポートシティ竹芝ポートスタジオをメイン会場として国内外にウェブ配信形式で開催しました。午後は日本語と英語を使用し、同時通訳を入れました。

5,364人の参加登録がありました。パブリック・ビューイングは全国267か所で、実行委員会30団体とその関連団体、都道府県看護協会・看護連盟、看護系大学、などが、コロナ禍においてそれぞれの可能な限り参集し実施されました。(写真2)

表 Nursing Nowキャンペーン実行委員会参加団体

公益社団法人日本看護協会、日本看護連盟、公益社団法人日本助産師会、全国保健師長会、一般社団法人日本精神科看護協会、一般社団法人日本看護学校協議会、公益財団法人日本訪問看護財団、一般社団法人全国訪問看護事業協会、一般社団法人日本看護系大学協議会、一般社団法人全国保健師教育機関協議会、公益社団法人全国助産師教育協議会、認定看護管理者会、一般社団法人看護系学会等社会保険連合、公益財団法人笹川保健財団、公益財団法人木村看護教育振興財団、WHOプライマリーヘルスケア看護開発協力セ

ンター／聖路加国際大学、災害健康危機管理 WHO 協力センター／兵庫県立大学地域ケア開発研究所、国立研究開発法人国立国際医療研究センター、日本赤十字社医療事業推進本部看護部、独立行政法人労働者健康安全機構、国立大学病院看護部長会議、社会福祉法人恩賜財団済生会、一般社団法人日本私立医科大学協会病院部看護部長会、独立行政法人地域医療機能推進機構、全国国立病院看護部長協議会、公益社団法人全国自治体病院協議会看護部会、国家公務員共済組合連合会、一般社団法人日本産業保健師会、一般社団法人日本看護系学会協議会



写真3 オープニングセッションであいさつする福井会長

## III 各セッションの議論

1. 「看護の日・看護週間」制定30周年記念式典／第10回「忘れられない看護エピソード」表彰式

記念式典では、田村厚生労働大臣、福井日本看護協会会長からの挨拶に続き、事業の説明などがありました<sup>4</sup>。

「忘れられない看護エピソード」は2,702通の応募の中から、特別審査員の内館牧子さん(脚本家)やゲスト審査員の荻野目洋子さん(歌手、女優)らにより選ばれた、看護職部門、一般部門、そして今回はNursing Now部門が設定され、21の作品が受賞されました。ゲスト審査員の荻野目洋子さんが最優秀賞作品を朗読され、審査委員長の内館牧子さんから講評があるなど、多くの皆様にご盛り上げていただきました。

2. Nursing Now フォーラム・イン・ジャパン

午後からは、Nursing Now フォーラム・イン・ジャパンが、オープニングセッション、分科会、クロージングセッションという流れで行われました。

1) オープニングセッション(写真3)

オープニングセッションは、Nursing Now についての理解を深め、人々の健康な暮らしを支援する看護、医療提供の効率化に資する看護についての現状と期待について議論し、続いて行われる分科会につなげる目的で開催されました。

厚生労働省および主催者の挨拶、世界的にキャンペーンを推進するNursing Now 事務局、世界保健機関(WHO)、国際看護師協会(ICN)からのビデオメ

ッセージがありました。

特に、世界的にキャンペーンを推進する Nursing Now 事務局長バーバラ・スティルウェル氏から、基調講演「立上る看護師：看護師がユニバーサル・ヘルス・カバレッジの課題に直面する中での Nursing Now のストーリー」は、Nursing Now キャンペーンの主旨から、これを今後どのように展開していくか、力強いメッセージを頂きました。看護の現状に関する国際的な報告書としては史上初の「世界の看護」(State of the World's Nursing :SoWN, WHO, 2020) の勧告に沿って日本の看護の現状を見通しておくべき、看護への投資は保健医療分野で最も価値があり、政策決定者はこれをコストとみなすべきではないこと、また、看護師自身が保健医療労働力全体における役割分担や業務分担について見方を変える時でもあり、合理的な業務分担の方法を考え、役割・枠組み・教育を再考すべきであると主張されました。そのためにも、政治的にも影響力のある看護職リーダーを育てる必要があります、ICN の取り組みについて話しました。

引き続き、国内外のスピーカー 5 名による講演が行われ、フィンランド看護師協会会長ニナ・ハテラ氏からは、主任看護官の存在とその影響に焦点化した活動を行っている北欧看護師協会の活動について、千葉大学大学院教授手島恵氏からは日本の看護におけるエビデンスの活



写真4 分科会1：トリプル・インパクトと政策

用の重要性について、前シンガポール看護師協会会長スウィーヒア・リム氏からはシンガポールにおける自宅に近い場所でケアを受けられる地域看護システムの構築について、ジョンソン・エンド・ジョンソンの内田氏からは企業の社会貢献活動としての災害看護に関する看護師への教育的な取り組みが紹介されました。

## 2) 分科会

オープニングセッションの講演を受け、分科会ではそれぞれのテーマに沿って行われました。

### ①分科会1：トリプル・インパクトと政策 (企画：日本看護協会) (写真4)

政策を推進していく上でインパクトを及ぼすエビデンスの重要性について検討することを目的として講演、パネルディスカッションが行われました。看護職がこれまで以上に貢献し、看護職が健康な社会の醸成に関わっていくためには、様々な制度や環境を整えていくことが必要です。

東京大学大学院教授真田弘美氏から基調講演「トリプル・インパクトと政策」として、褥瘡対策から特定行為研修制度の創設に至る間のエビデンスの蓄積と政策提言に向けた経過を報告いただきました。

パネルディスカッションではカナダ、アイルランド、韓国、チリ、レバノンやオーストラリアの看護協会長からエビデンスに基づく政策提言の例などの報告がありました。

ディスカッションでは、都道府県看護協会会長、日本看護系大学協議会の山本代表理事からも質問や意見を受け、政策提言に向けて、大学・現場・職能団体が One Voice で進めていくことの重要性が議論されました。



写真5 分科会2：在宅看護と持続可能な社会～看護師が社会を変える～

### ②分科会2：在宅看護と持続可能な社会～看護師が社会を変える～ (企画：笹川保健財団、協力：日本訪問看護財団・全国訪問看護事業協会) (写真5)

看護師は、保健医療分野だけでなく、人々の生活にも関与すべき責務があります。世界各地で進行する高齢化を鑑み、地域とその住民のケアと健康の維持増進への看護師の関与はより重要になります。

プライマリーヘルスケア、在宅ケアの世界的な有識者から講演があり、国内において笹川保健財団の「日本財団在宅看護センター起業家育成事業」修了者の活動が紹介されました。看護小規模多機能型居宅介護（いわゆる“カンタキ”）および多岐にわたる地域活動が報告され、海外有識者より、日本の在宅領域で活躍する看護師の活動の意義や今後の地域社会における看護師の役割と可能性が語られました。

### ③分科会3：災害に強いコミュニティ、安全・安心な社会の構築に向けた看護の貢献 (企画：災害健康危機管理 WHO 協力センター／兵庫県立大学地域ケア開発研究所、企画・実施協力：日本赤十字社医療事業推進本部看護部、WHO プライマリーヘルスケア看護開発協力センター／聖路加国際大学、日本助産師会、国立国際医療研究センター) (写真6)

日本は自然災害が多く、看護分野において、阪神・淡路大震災や東日本大震



写真6 分科会3：災害に強いコミュニティ、安全・安心な社会の構築に向けた看護の貢献

災害の大規模災害を経験し、災害のあらゆる段階で人々の生命を守り健康な暮らしを支援する総合的な実践により寄与しています。現在直面している新型コロナウイルス感染症対応においても、あらゆる場で尽力しています。

このような背景のもと、災害に強いコミュニティづくりに向けて何が必要かに関する基調講演、イタリアからのCOVID-19 対応報告などがあり、パネルディスカッション「災害に強い社会に向けて看護職ができること」では、災害支援ナース、災害救護における看護の貢献、災害下における母子支援、減災の取り組みなどが報告され議論されました。

### 3) クロージングセッション (写真7)

クロージングセッションでは、分科会モデレーターから各分科会のサマリーを発表し、最後に福井トシ子日本看護協会長より Nursing Now ニッポン宣言を公表し、閉会しました。



写真7 クロージングセッション

図 <Nursing Nowニッポン宣言>

- ・健康な地域・健康な社会づくり、人々の生涯を通じた安心・安全で健康な暮らしに、これまで以上に貢献します。
- ・看護職が社会のニーズを満たし、あらゆる場でその力を十分に発揮できるよう、実践から政策まで、それぞれの変革を推進するための意思決定に参画します。
- ・利用可能な最善のエビデンスに基づく、よりよい意思決定に寄与するため、幅広くエビデンスの集積に取組みます。
- ・これらの日本における取組み・成果を世界と共有し、世界的な目標である SDGs の達成、世界の人々の健康向上に尽力します。

## IV Nursing Now ニッポン宣言：我々の課題と今後取り組むべきこと

Nursing Now フォーラム・イン・ジャパンにおいて、私たちは政策におけるエビデンスの重要性、地域における活動、災害への備えと対応について議論しました。この議論から、社会がどのような状況下にあっても、看護職は人々の健康はもとより、地域の健康文化の醸成、社会の発展にも貢献する力を持っていることを再認識しました。これから、看護職が持つ力をより積極的に活用すべきだという認識のもと、継続的に取り組むことを、Nursing Now ニッポン宣言として掲げました。(図 Nursing Now ニッポン宣言)

### 脚注

1. 日本看護協会公式ホームページ, Nursing Now キャンペーン [https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/nursing\\_now/index.html](https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/nursing_now/index.html)
2. ナイチンゲール・チャレンジ, 中村安秀先生 [https://youtu.be/Y\\_-4-RSMx48](https://youtu.be/Y_-4-RSMx48)
3. 「看護の日・看護週間」制定 30 周年記念式典/第 10 回「忘れられない看護エピソード」表彰式プログラム  
[https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/nursing\\_now/nncj/assets/pdf/event/nn2020ceremony\\_program.pdf](https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/nursing_now/nncj/assets/pdf/event/nn2020ceremony_program.pdf)
4. Nursing Now フォーラム・イン・ジャパンプログラム  
[https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/nursing\\_now/nncj/assets/pdf/event/nn2020forum\\_program.pdf](https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/nursing_now/nncj/assets/pdf/event/nn2020forum_program.pdf)

### 参考文献

- i. All-Party Parliamentary Group on Global Health: Triple Impact – how developing nursing will improve health, promote gender equality and support economic growth; London, 17 October 2016  
[https://www.who.int/hrh/com-heeg/digital-APPG\\_triple-impact.pdf?ua=1&ua=1](https://www.who.int/hrh/com-heeg/digital-APPG_triple-impact.pdf?ua=1&ua=1)